第１章　昭和58年度山口大学構内遺跡調査の概要

１　昭和58年度調査の概要

山口大学埋蔵文化財資料館は、学内共同施設として、附属施設敷地を含む大学構内において掘削を伴う工事に際し、埋蔵文化財調査を要するものは、周辺における既往の調査結果や工事内容等を勘案しながら、埋蔵文化財に対する影響の度合に応じて、調査方法を事前（全面）・試掘・立会に区分し計画をたて、運営委員会にはかり承認を得たのち調査を実施している。さらに、その結果をふまえ、運営委員会が事後（保存・記録保存、試掘の場合は全面調査の必要性など）の決定をする。

山口大学吉田地区構内は「吉田遺跡」として著名な周知の遺跡であるため、前年度までは吉田地区構内のみを調査対象としてきたが、本年度以降は吉田地区以外の宇部市小串地区（医学部・医療短期大学キャンパス）、宇部市常盤地区（工学部・工業短期大学部キャンパス）、その他の諸施設敷地内の諸工事にも対応して調査を行なうことになった。

本年度は下記の通り16件の調査を行なった。

Tab.１　昭和58年度調査一覧表

調査区分	調　査　地　区	調査面積 (㎡)	調査期間	校内地区割	図版・挿図番号
事　前	大学会館新営予定地	2000	9月1日～12月26日	M－12区 N－12区	PL1－48
	ラグビー場防球ネット設置予定地	114	12月20日～1月19日	G－19区 H－19区	PL1－49
試　掘	教育学部附属光小学校自転車置場設置予定地	6	1月20日	――――	Fig.48
	医学部体育館新営予定地	260	2月2日～2月16日	――――	Fig.66
	工学部校舎新営予定地	70	1月23日～1月31日	――――	Fig.57
	工学部図書館増築予定地	70	2月24日～3月1日	――――	Fig.57
	教育学部附属山口小学校・幼稚園運動場整備予定地	60	3月26日～4月6日	――――	Fig.71

昭和58年度山口大学構内遺跡調査の概要

調査区分	調　査　地　区	調査面積 (㎡)	調査期間	構内地区割	図版・挿図番号
立　会	理学部大学院校舎新営および付随工事	410	6月17日 10月18日	M・N－20区 O ― 20・21区	PL1－50
	学生部正門・南門自転車置場設置工事	183	12月6日 ～ 12月14日	I ― 12・13区 J ― 13区 H ― 23区	PL1－51
	学生部アーチェリー場的台・電柱設置工事	33	2月1日	M ― 8区	PL1－52
	学生部廐舎関連工事	1.6	2月1日	L ― 9区	PL1－53
	学生部野球場散水栓取設工事	1	2月1日	J・K― 21区	PL1－54
	学生部テニスコート改修工事	12	3月12日 ～ 3月28日	C ― 17・18区 D ― 16・17区 E ― 16区	PL1－55
	教養部環境整備工事	80	3月16日 ～ 3月22日	I ― 16・17区 J ― 17区 K・L― 17・18区	PL1－56
	医学部図書館増築工事	4	11月1日	――――	Fig.104
	医学部体育館新営付随工事	1	3月31日	――――	Fig. 66

吉田地区の調査

9件の調査を行なった。このうち事前調査は大学会館新営とラグビー場防球ネット設置に伴う2件である。

大学会館新営予定地では小さな谷を狭んだ2つの丘陵上で古墳時代から中世にかけての柱穴、土壙が検出され、また谷部では湧水点が認められ、その汀線付近において5基の井戸（古墳時代1基、中世3基、不明1基）が検出された。谷の侵食および後世の削平によりいずれも井戸最下段しか残存していないが、古墳時代のものは方形プランを呈し、転用材により構築された横板組の井戸である。中世のものはすべて円形プランを呈し底面に曲物を据えたものである。なお包含層よりの出土遺物には多量の弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、瓦質土器、木製品、石製品があり、その中に畿内系瓦器、墨書土器、石製銙帯を含んでいるのが注目を引く。

ラグビー場防球ネット設置予定地では弥生時代中期後半から後期前半に属する溝や弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴式住居跡などが検出された。周辺では遺跡保存地区や昭和56年度に調査を実施した教育学部構内H－19区において弥生時代中期から古墳時代前期にかけての住居群が検出されており、付近一帯が居住区域として継続的に機能していたこと

を示唆する。今回検出した竪穴式住居跡はこの集落の時間的・空間的推移を知るうえで貴重な資料と考えられたため、保存の要請を行なったところ、設計の一部を変更して竪穴式住居跡の現地保存の措置がとられた。

立会調査は7件実施した。理学部大学院校舎新営および付随工事、並びに学生部アーチェリー場的台・電柱設置に伴う立会調査では、工事範囲内の地山がすでに削平されており、遺構、遺物が埋存していたとしても消失してしまっている可能性が強い。学生部野球場散水栓取設工事、学生部テニスコート改修工事、教養部環境整備に伴う立会調査ではそれぞれに遺物包含層が認められ、今後各周辺地域における諸工事の際には十分な調査が必要であろうと思われた。また学生部厩舎関連工事、学生部正門・南門二輪車置場および正門花壇新営工事での掘削は構内造成時等の置土の範囲内にとどまった。

小串地区の調査

試掘調査1件、立会調査2件を実施した。

医学部体育館新営に伴う試掘調査では顕著な遺構は検出されなかったが、旧石器をはじめとして土師器、須恵器、瓦質土器、磁器が出土し、遺跡の存在が明らかになった。また、これに付随する工事の立会調査では試掘調査時と同様の堆積が認められたが遺物、遺構は認められなかった。

医学部図書館増築に伴う立会調査ではキャンパス南端部における土層の堆積状態を確認したにとどまった。

常盤地区の調査

工学部校舎新営予定地および図書館増築予定地における2件の試掘調査を実施したが、前者で古墳時代の遺物が出土したものの両者とも後世にかなり削平を受けており、顕著な遺物、遺構は認められなかった。

その他付属施設の調査

2件の試掘調査を行なった。教育学部附属光中学校自転車置場新営予定地では近世末から近代初めの石垣を検出し、19世紀を中心とした瓦質土器や陶磁器、瓦が出土した。また教育学部附属山口小学校・幼稚園運動場整備に伴う調査においては、小学校運動場で古墳時代前期から中期の遺物包含層をはじめとして古墳時代の竪穴式住居跡、内部より多量の土師器、木器が出土した溝状遺構などを検出した。とりわけ溝状遺構より杆とセットで出土した鳥形木製品は霊鳥信仰を背景とした儀器と考えられるもので、当時の信仰・習俗を探るうえでの貴重な資料となった。

2　構内の調査について

①　吉田地区の現状

山口市に所在する吉田地区には隣接の教育学部附属養護学校を包括した広い範囲にわたって、「吉田遺跡」が埋存していることは古くから周知されていることで、昭和41年の総合移転開始以降、土木建設工事に際しては文化財保護法の手順に基づき、随時調査が実施されてきた。その結果、長年にわたる調査データの集積によって埋蔵文化財の分布図ができつつあり、そのため新たな工事に関しては、当該地周辺の埋文状況や工事内容等の検討により調査の必要度の判断がしだいに容易になってきている。

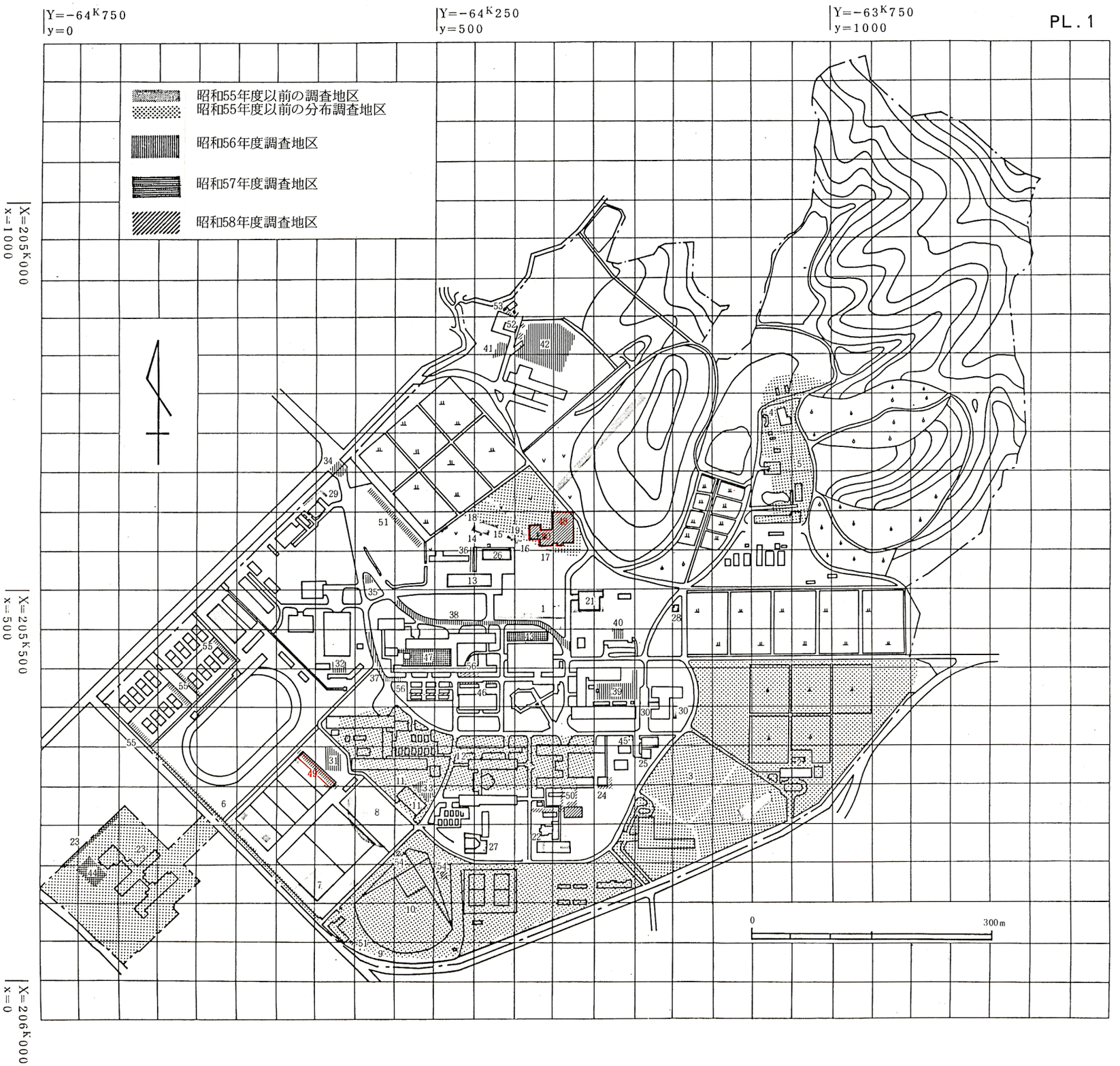
②　小串・常盤地区等の調査実施について

山口大学構内には吉田地区以外に小串地区（宇部市―医学部・医療短大・附属病院）、常盤地区（宇部市―工学部）があり、また附属施設として小・中学校（山口市・光市）、養護学校（山口市）などが県内に点在している。

これまで構内での埋蔵文化財調査は、吉田地区の総合移転を契機としていること、またそのため大学の整備計画の重点が長い間吉田地区に置かれていたこと、かつ埋蔵文化財が濃密に包蔵されていたことなどから、調査自体も必然的に吉田地区に集中し、他の地区についても本来必要であったものの調査体制の不十分さより容易に実施できない状況であった。しかし、吉田地区以外でも附属光小・中学校（御手洗遺跡）のように周知の遺跡が存在している所があり、小串・常盤地区や他の附属施設地についても周知の遺跡ではないものの、しかし、埋蔵文化財包蔵の有無について全く調査がなされておらず、後章（小串地区―第４章２・常盤地区―第６章２など）で説明するように周辺の遺跡分布状況から察して各構内に埋蔵文化財が埋存している可能性が十分に考えられた。また、仮に工事中において遺跡や遺物が発見された場合、文化財保護法によって工事が中断するケースも起こりえ、工事自体に大きな影響を及ぼす心配があることから、このような事態に陥らないためにも、小串地区の再開発計画を契機として昭和58年度より吉田地区以外でも調査を実施するに至った。ついてはなるべく早急に埋蔵文化財の有無の確認、分布図の作成を行ない、将来における整備計画等が円滑に進むようにしたいと考えている。

PL.1

山口大学吉田構内地区割および調査区位置図



吉田構内全景（北西から）

常盤構内（工学部・工業短期大学部キャンパス）全景（南から）

小串構内（医学部・医療短期大学部キャンパス）全景（南西から）

遺　構　配　置　図

y = 650
y = 660
y = 670
A
D'
x = 610
x = 600
x = 590
x = 580
x = 570
B'
A'
0
10m
y = 630
y = 640
E'
C
C'
B
E
SK1
SE2
SE1
SE5
SE3
SE4
SE6
SK3
SK2
トレンチ